

中部地整管内

ICT活用数が急増

MC/MG技術に伸び

建設ICT技術の活用件数が、国土交通省中部地方整備局管内の工事で大幅に増えていることがわかった。2009年度に36件だった活用事例が、12年度には320件にまで増加。このうち90%が施工者希望型となっており、特にMC（マシンコントロール）/MG（マシンガイダンス）技術の伸びが大きかったという。国交省愛知国道事務所が8月28日に開いた建設ICT技術受発注社合同勉強会で明らかにした。

国交省は「トータルソリューション（TS）」による出来形管理技術」を「一般化技術」の対象として指定し、2013年度から1万立方メートル以上の土工で使用を原則化した。国交省中部地方整備局はこれに先駆け、指定

した一部工事について複数の建設ICT技術を組み合わせる「中部標準化」を実施。受発注者と有識者などで構成する建設ICT普及導入研究会が中心となり、技術普及と現場支援を行ってきた。

同局が受注者に対して行った、ICT技術の導入目的に関するアンケート調査では、導入に至った背景として▽人材育成や施工経験の蓄積▽作業効率・施工品質などの生産性向上▽総合評価や工事評定への加点などが理由として挙げられた。

勉強会ではこのほか、中部地整が発注する建設工事（営繕・港湾空港関係を除く）について、建設ICT技術を総合評価落札方式などで評価する際のポイントを解説。施工能力評価型と技術提案評価型の評価対象とし

て、TS出来形管理を行う▽500立方メートル以上1万立方メートル未満の土工▽1000平方メートル以上の舗装工・路盤工▽250平方メートル以上の法面工を挙げた。ただし、1万立方メートル以上の土工は全国一般化技術と同じため、評価対象外となる。また、施工能力評価型では、土工500立方メートル以上で使用する▽MG（マシンガイダンス）バックホウ▽MC

（マシンコントロール）モータグレーダ▽MC/MGブルドーザ▽TS/GNSSによる締め固め管理工が対象となる。1000立方メートル以上では▽MCモータグレーダ▽MCアスファルトフィニッシャーとTS/GNSSによる締め固め管理を併せて活用する場合、加点対象となる。このほか、勉強会では、愛知国道管内の活用事例として、大興建設による「名二環大西北地区道路建設工事」を紹介した。勉強会には、同事務所発注の工事の受注者や行政職員ら40人余りが参加した。

【建設ICT】

- | | | | |
|---------|--------|--------|----|
| 1. 日経 | 2. 朝日 | 3. 毎日 | 日勢 |
| 4. 読売 | 5. 朝日 | 6. 毎日 | 中伊 |
| 7. 産経 | 8. 朝日 | 9. 毎日 | 日刊 |
| 10. 中部経 | 11. 朝日 | 12. 毎日 | 業事 |
| 13. 建設通 | 14. 朝日 | 15. 毎日 | 日本 |
| 16. 建設工 | | | |

平成25年9月4日(朝)・夕) P1



中部